

第3回 苫小牧港カーボンニュートラルポート検討会 議事概要

(令和4年8月4日(木) 14:00~16:00)

議題① 苫小牧港カーボンニュートラルポート形成計画(骨子案)

- 形成計画の骨子案について説明した。
- 具体的には、国土交通省が公表している「カーボンニュートラルポート(CNP)形成計画」策定マニュアル(初版)を参考とし、「計画の目的」、「カーボンニュートラル実現に向けた苫小牧港の目指す将来像」、「苫小牧港CNP形成計画における基本的な事項」、「温室効果ガス排出量の推計・削減目標・削減計画」、「水素・燃料アンモニア等の需要推計・供給目標・供給計画」、「苫小牧港の目指す将来像の実現のための方策」、「実証フィールドの提供」、「ロードマップ」をまとめたものとなっている旨を説明した。

議題② 苫小牧港カーボンニュートラルポート形成計画の方向性について

- 苫小牧港カーボンニュートラルポート形成計画の方向性について説明した。
- 具体的には、骨子案を補足する形で、「対象範囲」、「CO₂ 排出量の推計結果」、「温室効果ガスの削減目標・削減計画」、「次世代エネルギーの需要推計」等をまとめたものとなっている旨を説明した。

意見交換

構成員の皆様から、苫小牧港 CNP 形成計画に対するご意見・コメントを頂戴した。

<主な意見・コメント>

- 苫小牧港におけるカーボンニュートラルの実現に向けて、貢献できる方法を模索していきたい。
- 次世代エネルギーの受入拠点として、明確に方向性や規模感が示されたことが良かった。
- 将来像を整理する際に、需要にももっと目を向けて、よりリアリティのある計画としてほしい。
- ターミナルの脱炭素化を検討していくにあたって、機械メーカーの開発状況に左右される部分も大きいのではないかと。
- 次世代エネルギーの輸送方法について、タンカーの他にコンテナでの輸送も可能であるものの、港湾サイドの受入体制が整っていないケースが多い。
- 陸電供給の課題について、ターミナル側での供給設備の整備費用の他、船舶側で受電設備の改造費用を要することが挙げられる。
- 船舶燃料においては、LNG が重要な役割を果たすと考えているため、その利活用に関する方向性を記載すべきではないかと。
- カーボンリサイクルの記載に関して、パイプライン等のインフラや CO₂-EOR(CO₂ 圧入工法)にも触れるべきではないかと。
- 苫東地域の CN 計画との連携ができるとういのではないかと。
- 太陽光発電等により余剰電力が発生した場合、地域で需給バランスを取る仕組みができることを期待している。